R18

少年王と年上王妃

past days

はじめまして
陛下
シャルロットと
申します
これから末永く
よろしくお願い
いたします
あの日から
ずっと

君に
恋をしている

幸いにして
ご遺体に
酷い損傷はなく
現在王都まで
移送中とのこと

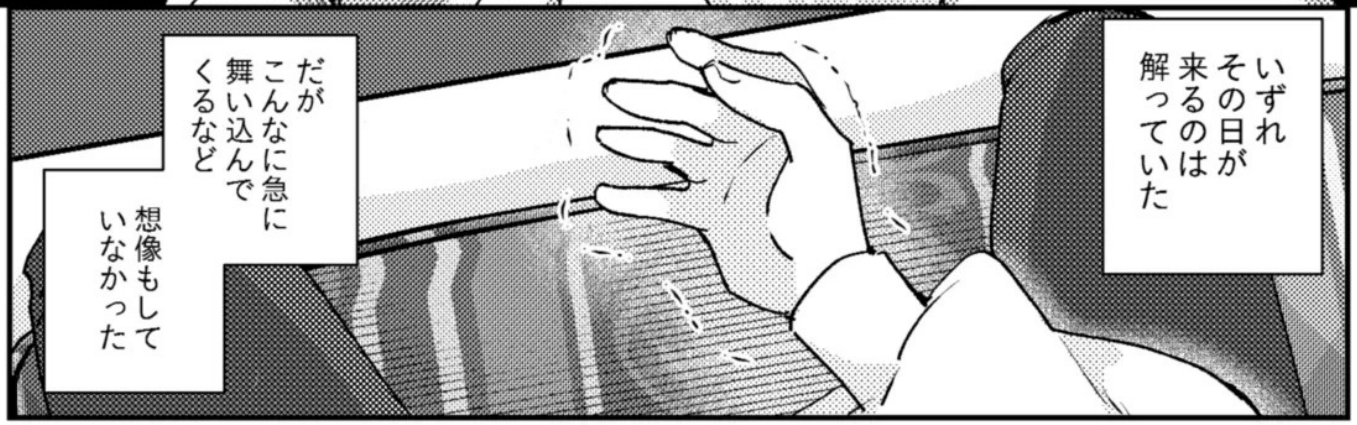
よろ…

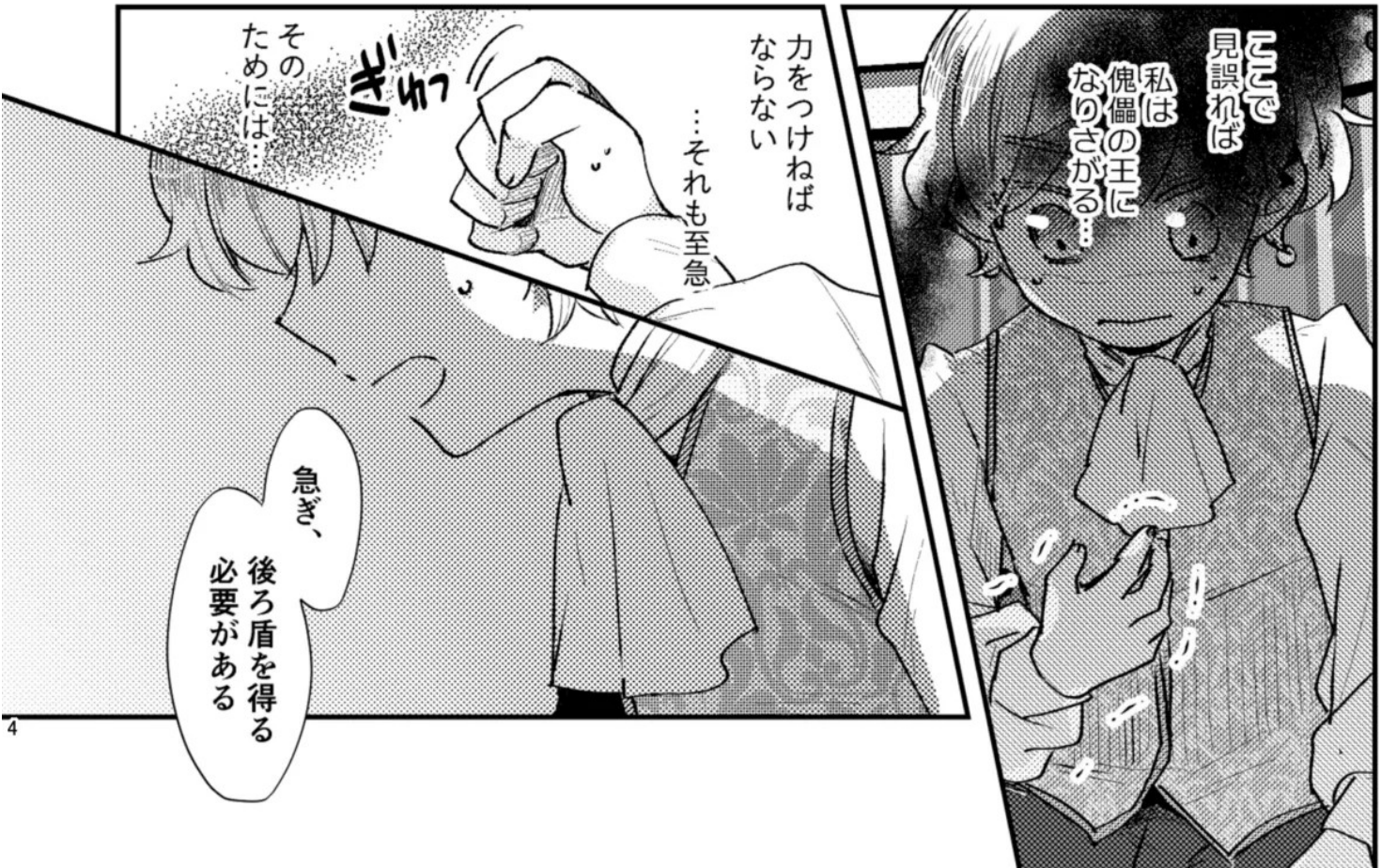
また葬儀の手筈、
事故の検証も
すでに
宰相閣下の指示の
もとはじまって
おります

ストン
…そうか
ご苦労

殿下の
正式な戴冠に
つきましては
葬儀ののち、
喪が明けてから
となるかと
ハッ
戴冠…

そうか
…そうだな…
私が
王となる


いずれ
その日が
来るのは
解っていた
だが
こんなに急に
舞い込んで
くるなど
想像もして
いなかった


ここで
見誤れば
私は
傀儡の王に
なりさがる…
力をつけねば
ならない
…それも至急
そのために
ためには…
急ぎ、
後ろ盾を得る
必要がある

…国に二心なく
私の支えと
なってくれる家との
婚姻が

…畏れながら
それらの家には
吊りあいの取れる
娘がおらず

どうせ
遅かれ早かれ
国のために
婚姻を結ぶこと
となったのだ

そこに
私の意志など
必要なかろう

そうして
選ばれたのは
宰相家の娘
シャルロットだった

年のつり合いなど
些末なこと…
その家の娘には
哀れなことだがな

はっ…
それでしたら…

今年
デビュタントを
迎える
はずだった娘は

その憧れの舞台で
素晴らしい婿がねと
出会うことを
夢見ていたであろう
娘は

6つも下の
子どもと
婚姻を結ぶこと
となる
それを少しだけ
哀れと思う
夫婦として
いい関係を
築くことなど
無理かも
しれないな…
だが
貴方様が
おつらいときや
お寂しいとき
こうして家族として
貴方様を抱きしめて
差し上げたいのです
おそらく
先王陛下や
太后さまが
そうしたように…
そうか…

もう
父上も
母上も
いないんだ…
父上…
母上…
ひくっ…
ひっく…
肉親を喪った
悲しみすら
気づかなかった
愚かな私に
寄り添って
くれた君だから
だから
政略でない、
その先の関係を
望みたく
なったんだ

—王妃殿下は
閨について
どの程度教育を
受けておいで
でしょうか？
閨、
…ですか？

全て夫となる方に
お任せしなさい、と
嫁ぐ前に
母に…
けれど陛下のご年齢も
あるのでその日は
まだ来ないでしょう
とも言われました
ええ
そうですね
今の陛下の
お身体では
御子を作るには
まだ難しいでしょう
ですが、
いずれ必要となる日が
来ます
そのときのために
殿下には少し詳しく
閨について学んで
いただくことになります
は、はい…
ぎゅっ

もちろん、
陛下ご自身も
学ぶこと
ではありますが
殿下の手が必要と
なる場面も出てくる
やもしれません
そうしたときに
さりげなく
お導きできるように…
はぁ…
結婚した
夫婦というのは
あんなことを
するのね…
でも…
夜伽が
必要になる頃には
わたくしよりも
年頃のほかの娘を
選ぶのでは
ないかしら？
わたくしでは
年齢差がありすぎて
陛下の対象には
ならない気がするわ

やあ
シャルロット
陛下…
そんに
お兄様も…
お茶の時間
かい？
私もご一緒
させてもらえない
だろうか
ええ！
もちろん
構いませんわ
ささ
こちらに
どうぞ
ガッ
あら、
でもお兄様と
ご一緒という
ことはお仕事の
途中だったの
では？
オーギュスタンとは
ちょうどそこで
会ってね
スト。

君も婚儀以来、
家族と会う時間も
なかったろうから
会いたいかと
思って
連れてきたんだ
お気づかい
ありがとう
ございます
まあ

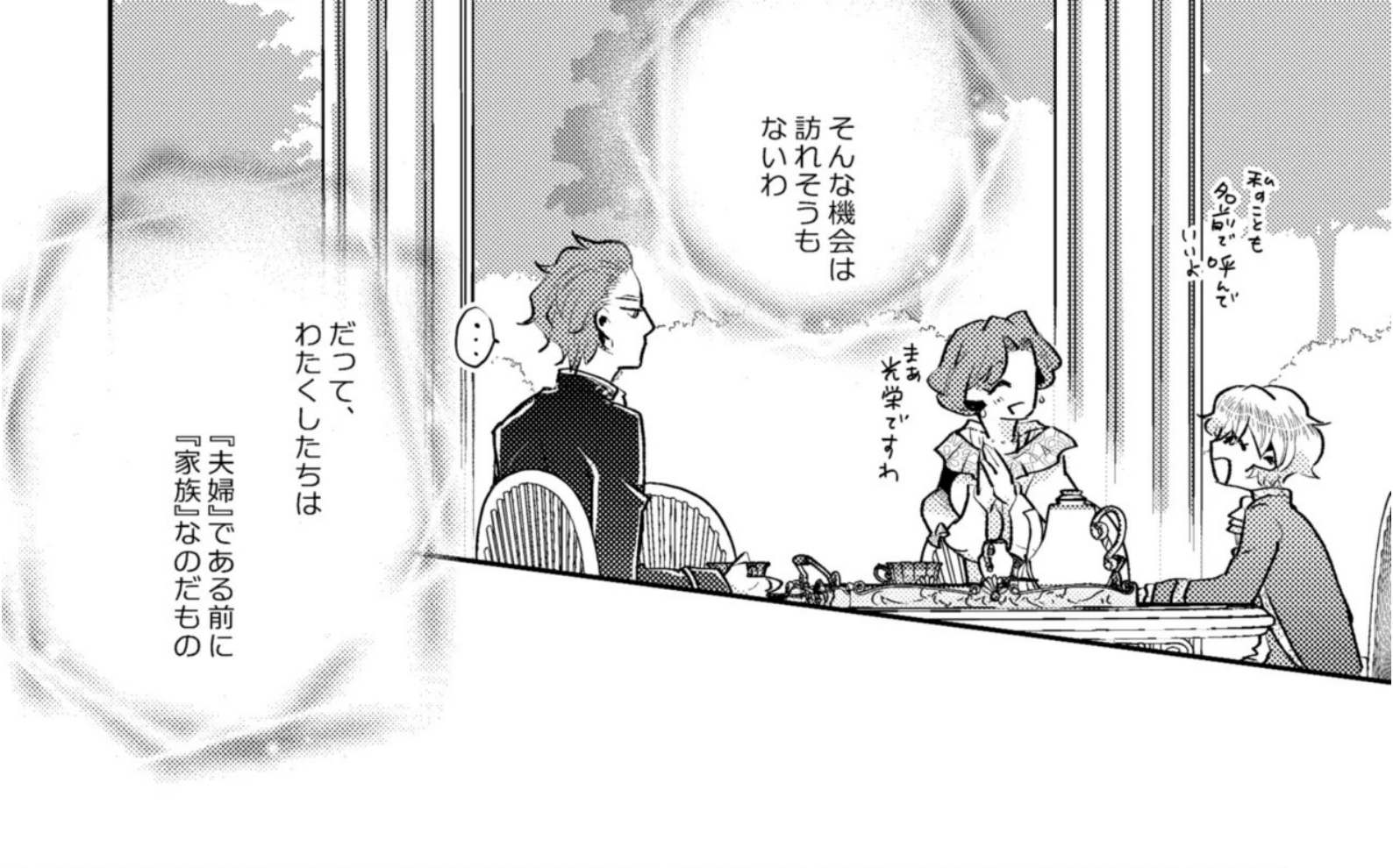
私としては
さっさと
仕事に戻りたいの
ですがね

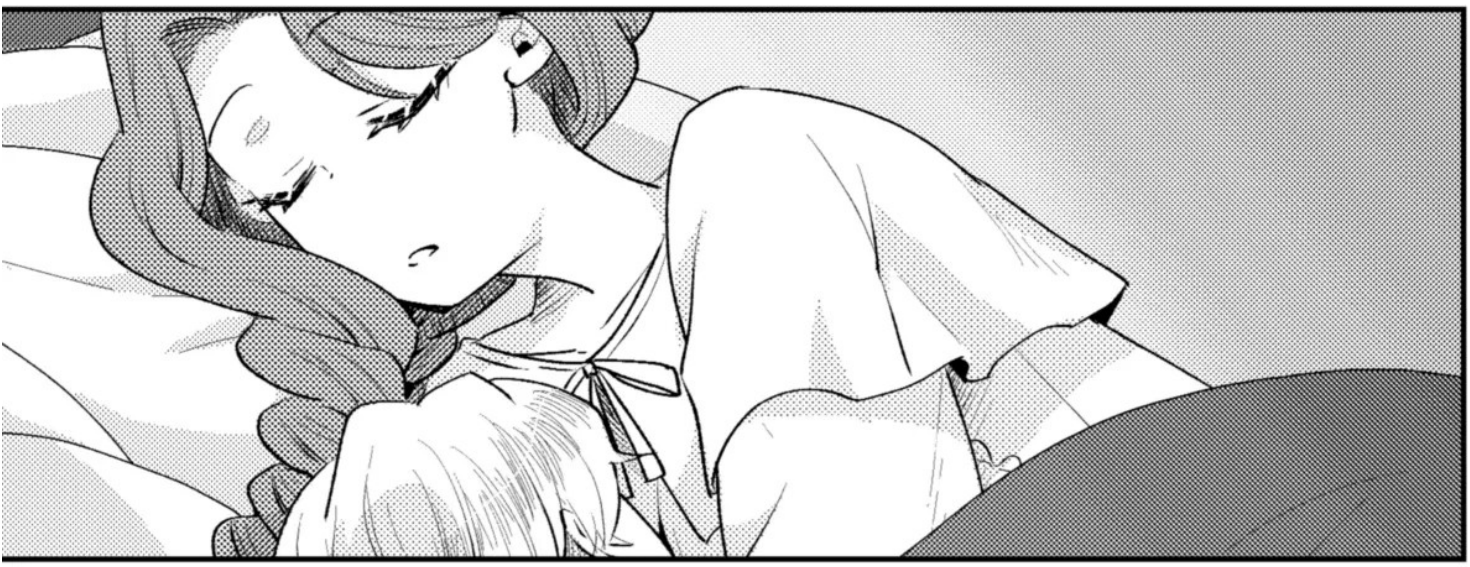
いいじゃないか
息抜きも
必要だよ
そうですね
お兄さまが
お忙しいのは
承知してますけど
だからこそ
休むことも大事
ですわ

殿下まで、
唆すようなことを
言わないでいただきたい
あら、
公の場でもないのに
そんな他人行儀に
されるのは寂しいわ
ガタッ
…はぁ
少しの間
だけだぞ
それに本当に
時間がないなら
お兄さまは
こちらに寄ることも
しなかったと思うわ
驚いた
あの
オーギュスタンを
黙らせるとはね
あの、
とは？
融通も
きかなければ
隙もない
男かな？
…
まあ、
陛下ったら
ごほん。
シャーリー
ふふ
ごめんなさい
お兄さま

ほら?
今日のデザートはちょうどアップルパイなのお兄さまお好きよね
…う、む
はぅっ
本当に君たちは仲がいいんだね
宰相家は家族仲がいいとは聞いていたが
…いいなぁ
陛下
ぱっ
シャーリー

シャルロットはオーギュスタンにそう呼ばれているんだね
え？
ええ
家族や親しい者には愛称で呼ばれることが多いかと
では私もそう呼んでいいかい？
ええ！もちろんですとも
わたくしたちも家族となったのですから
ほんと？
嬉しいなぁ
もっと君と親しくなれたみたいだ
やっぱり…


そんな機会は
訪れそうも
ないわ
だって、
わたくしたちは
『夫婦』である前に
『家族』なのだもの
…
まあ光栄ですわ
私のことも
名前で呼んで
いいよ



シャルロット?

…シャーリー

寝てしまった?
すー…
ス…
はっ
はっ
はっ
やわらかい…

はぁはぁ
直接見てみたい…
ずくっ
だが一度見てしまえば
きっともう止まれない
グリ
グリッ
はやく、大人になりたい
そうしたら
誰に憚ることなく君を妻にできるのに
ふっ
ふっ
ふっ

きっと君は
こんなにも
持て余している
私の気持ちなんて
知りもしない
のだろうけど…
それでも…
せめて君に意識して
もらえるように
なりたいよ

ねえ
シャーリー
ドキッ
今日もいい？
は、はい…
ちゅっ
あの日の疑問と
裏腹に
二次性徴を迎えた
陛下は毎日のように
夜伽を望まれる
『そんな日が
来るのかしら』
ちゅ
ちゅ
ん…

わたくしたちは
『家族』だと
思っていたのに…
アンリ様…
れろ♥
たぷん
王として、
夫婦としての
義務を果たすため?
親愛を
恋慕と錯覚なさって
いるの?
それとも
性の目覚めを
覚えた身には
一番近くにいる
女のからだが
手軽だから?
ちゅっ♥
ちゅっ♥
ぷにっ
考え事?
きゅっ♥
コスコス♥
あむっ♥

随分と
余裕だね
ガバッ
ビクッ
あ、アンリ様!?
何を…!
ちゅっ♡
いけません!
そんな…っ
きたない…っ
君に汚い場所
なんてないよ
サッ
ここだって
芳しい香りで
私を誘っている
ひゃっ!
スリ♡
で、ですが、
そこは
口づけるような
場所では…

うーん
君をかわいがるごく一般的な方法なんだけどなぁ
くにくに
い、っぱん的だなんて、
…教えには、そんな、はしたないこと…っ
ふふ、そうだね
きっと君が受けたお綺麗な授業ではそんなことは教えないだろう
しゅるるっ
道徳的な性交よりずっともっと
気持ちのいい方法がいっぱいあるんだよ
つぷんっ

でも
君がいやなことを強要するわけにはいけないね

だから今日は
君が私に
正しい
閨の作法を
教えて？
え…

教えるなんて
ちらっ
アンリ様のほうが
何倍も
お詳しそうなのに…
シャーリー
ねえ早く
あ、あの…
つたなくて、
うん、大丈夫
むしろそれが
いいんだ

ふふ、
君からの
はじめてのキス だ
でも
こっちが
いいなぁ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
なでなで
スッ
ビクッ
んっ
大丈夫
続けて？
おど…
は、はい…
はぁ♡
いったい
どんな手管を
教わってきたの？
まさか君に
かわいがって
もらえるなんて…
あ、あの、やはり、お嫌でしたか？
ピろ♡
とろ…
ピクン♡
するり…

ん、
まさか
とても
気持ちいいよ
ぽすっ
そ…それは、
何よりです…

本当に…
勉強熱心で、
いつも
びっくり
させられます

だから、
たまには
君が私を
導いてよ…
ん、

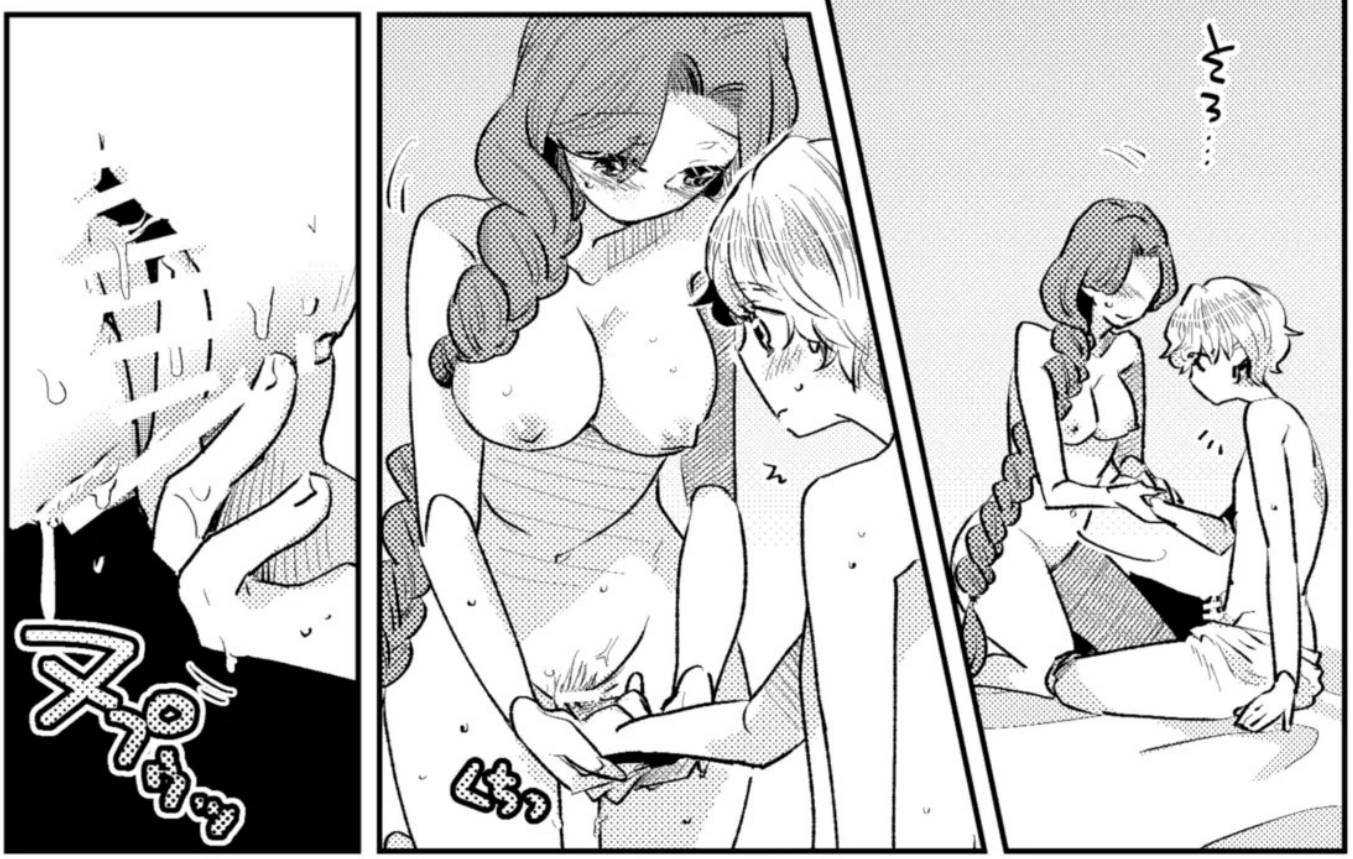
わたくしも
まさか、
教わったことを
実践する機会が
あるとは、
思いませんでした…
その、
アンリ様は、
わたくしなんかより、
とても、お詳しい
ご様子でしたので
君を愛したくて
いっぱい勉強
したんだよ

申し訳ございませんっ
お強かったですか？
ううん、そこ、もっと強く撫でて
はぁ♡
ハッハッ
はぁ♡
ここ、ですか？
くにっ
そう、…上手
くにっ
ビクッ
ビクッ
ん…はぁ、気持ちいい…

こんなことをしておいて
戸惑いがちなのが更にいい

ああ
本当にかわいらしい

なにをしても
私の欲をそそる
なんて
本当に罪深い
はぁ…♡
ゴク…
…アンリ様が
気持ちよくなって
くださっている
すっき途中で
放り出して
しまっただろう?
私はじゅうぶん
高めてもらって
いるけど
君のからだの
準備は大丈夫
かい?
あ…
もぢ…
そ、
その、…


とろ…
ぷちっ
ヌポッ

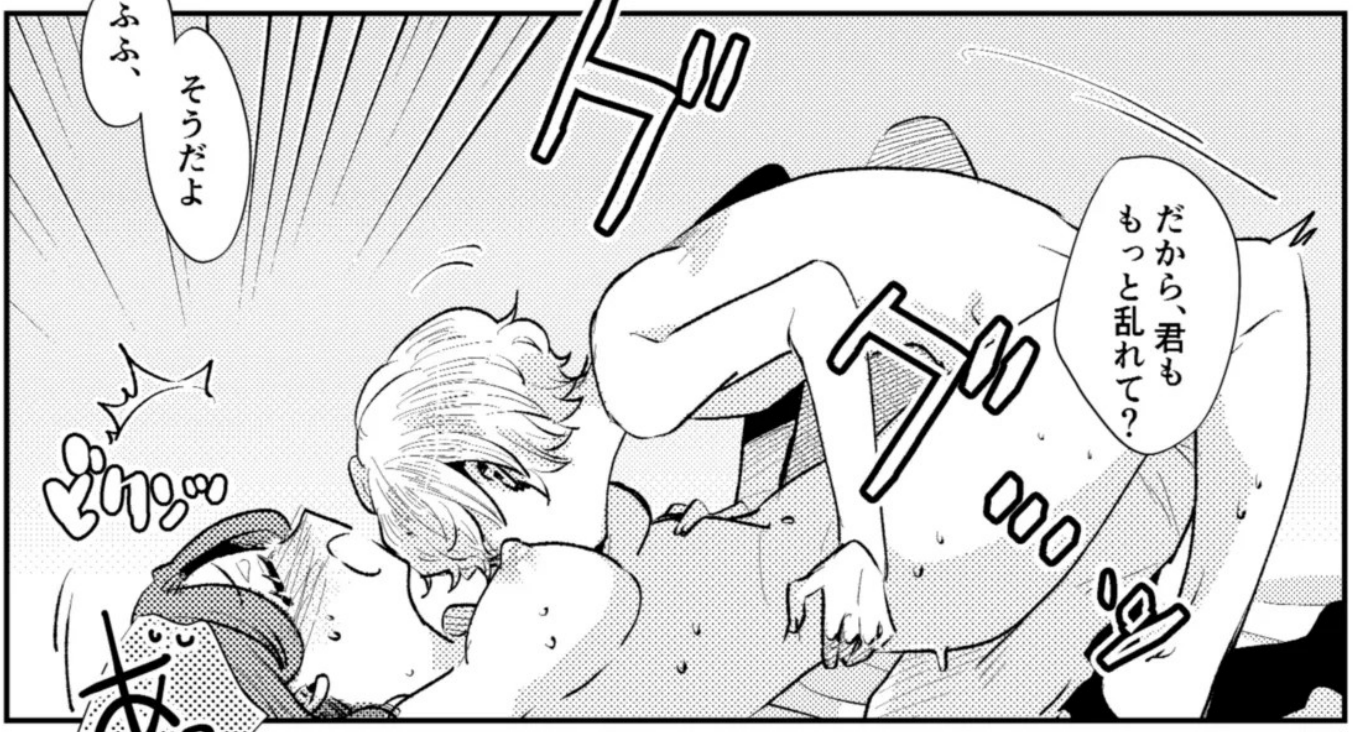
ふふ、
君も
興奮した？
あんぐ…
こ…
私は
すごく
興奮した

君が、
ちゅっ
私を愛してくれて
クィッ
ちゅっ
ちゅぷっ
くちゅ
くちゅ

ねえ、
これで
合ってる？
フニ♡
は、はい…
そのまま、
どうぞ
お好きなように
ハム♡
ふぐ♡

では
そうさせて
もらおうかな？
スッ
…なるほど
ピッ
ヤイッ
あっ、
ちがっ
ぷるん
ぷるん
ぱちゅっ
ぱちゅっ

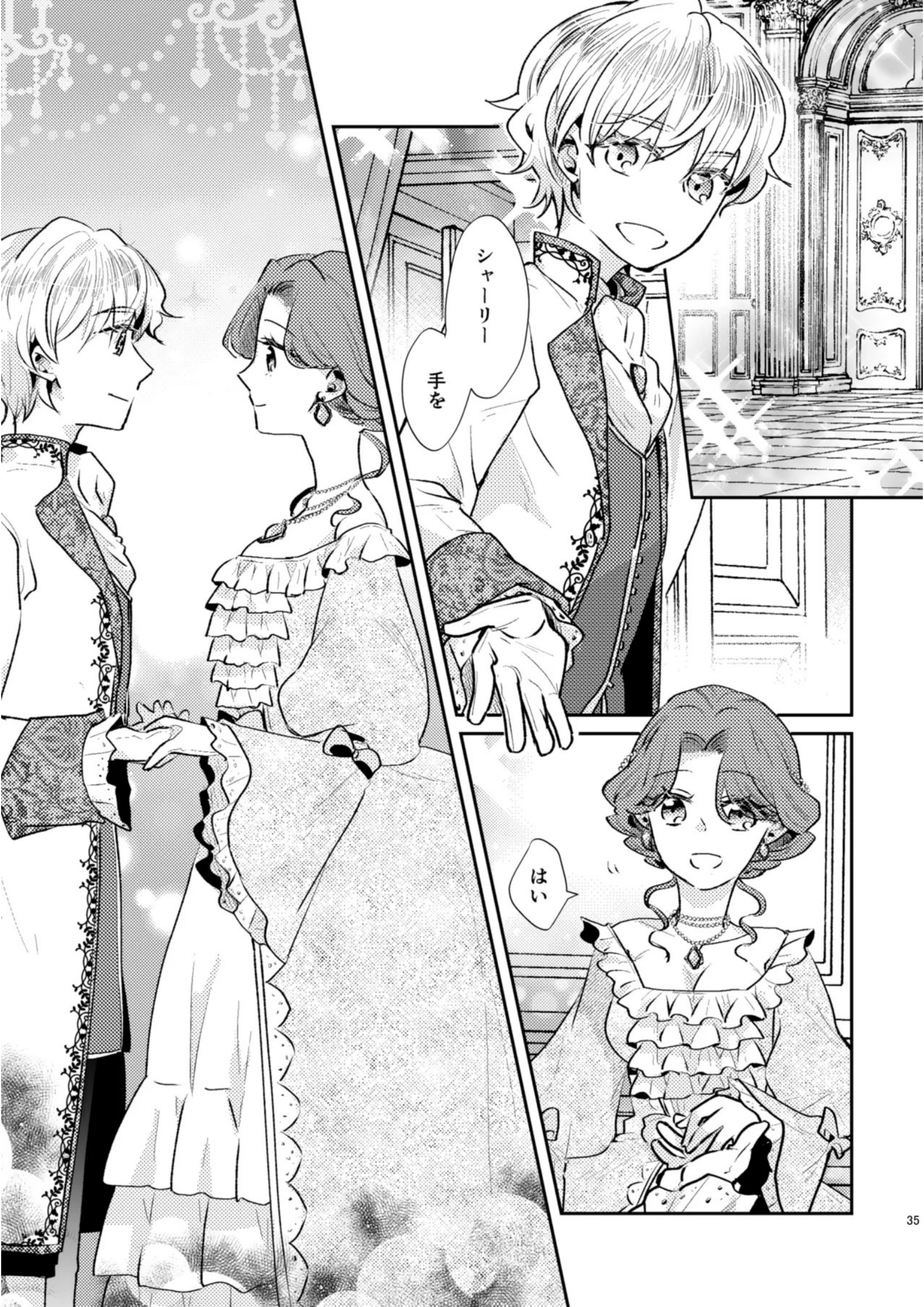
何が？
だって、
アンリ様に、
気持ちよく、
なってもらう
ためなのに…っ
パーン
パーン
パーン

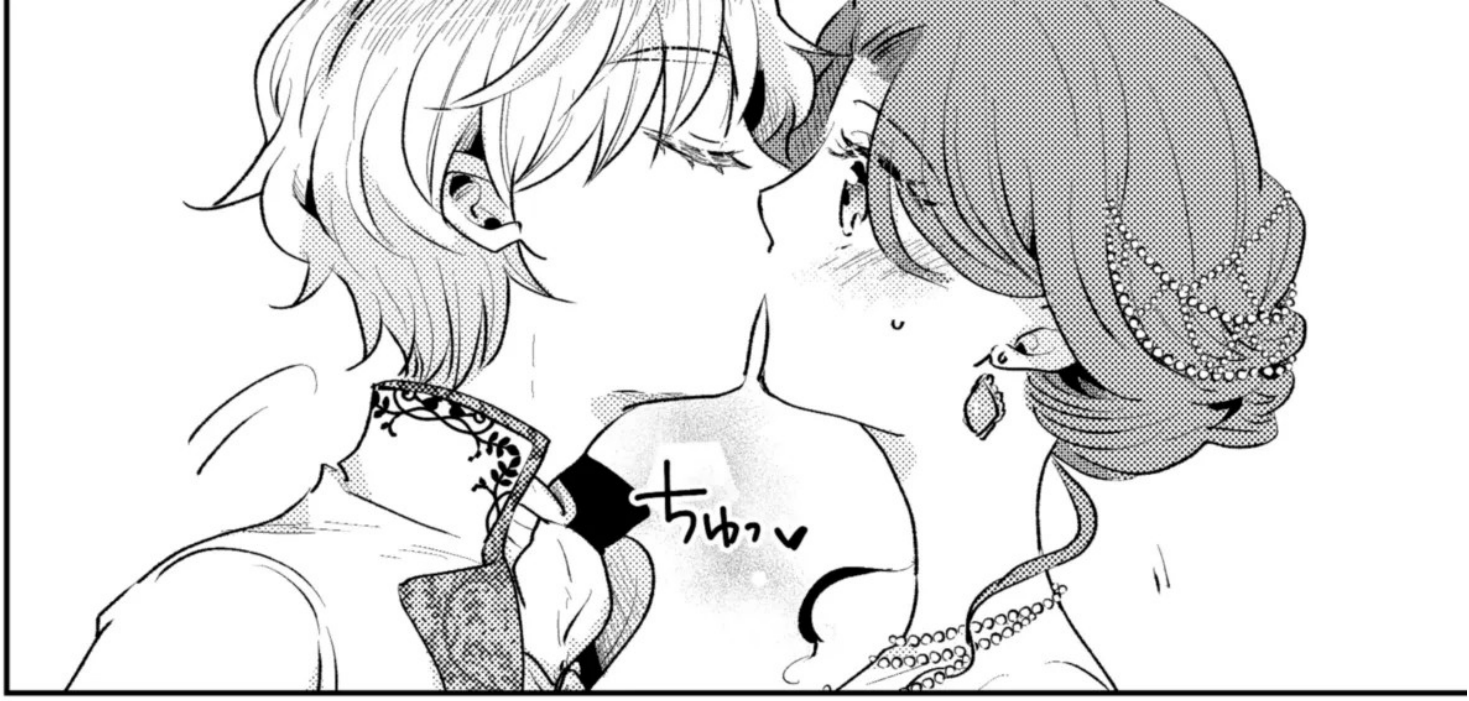

だから、君も
もっと乱れて？
ふふ、
そうだよ
ドゴ
ドゴ
ドゴ

あっ
スー

私は
君が乱れている姿が
一番好きなんだ
すっ
すんっ
ぐちゅっ♡
あっ
アンリ様…っ
やっ
ぐぷっ♡
だめ
すっ
ぐちゅっ♡
ぐちゅっ♡
愛してる
はぁ♡
愛してるよ
シャーリー
でも本当は
はっ
はっ
はっ

分かっていて
認めたくなかった
だけなのかも
しれない
あなたの
瞳は、
あなたの
言葉は、
何より
まっすぐで
はっきり
しているから
だから
わたくしは
この愛に
溺れてしまう
のが恐ろしい


シャーリー
手を
はい


ちゅっ♥

ア、
アンリ様…
ごめん、
つい

でも君は
もっと深いキスも
いっぱいしてるのに
こんなキスでも
照れてしまう
んだね
かわいらしい

…もう

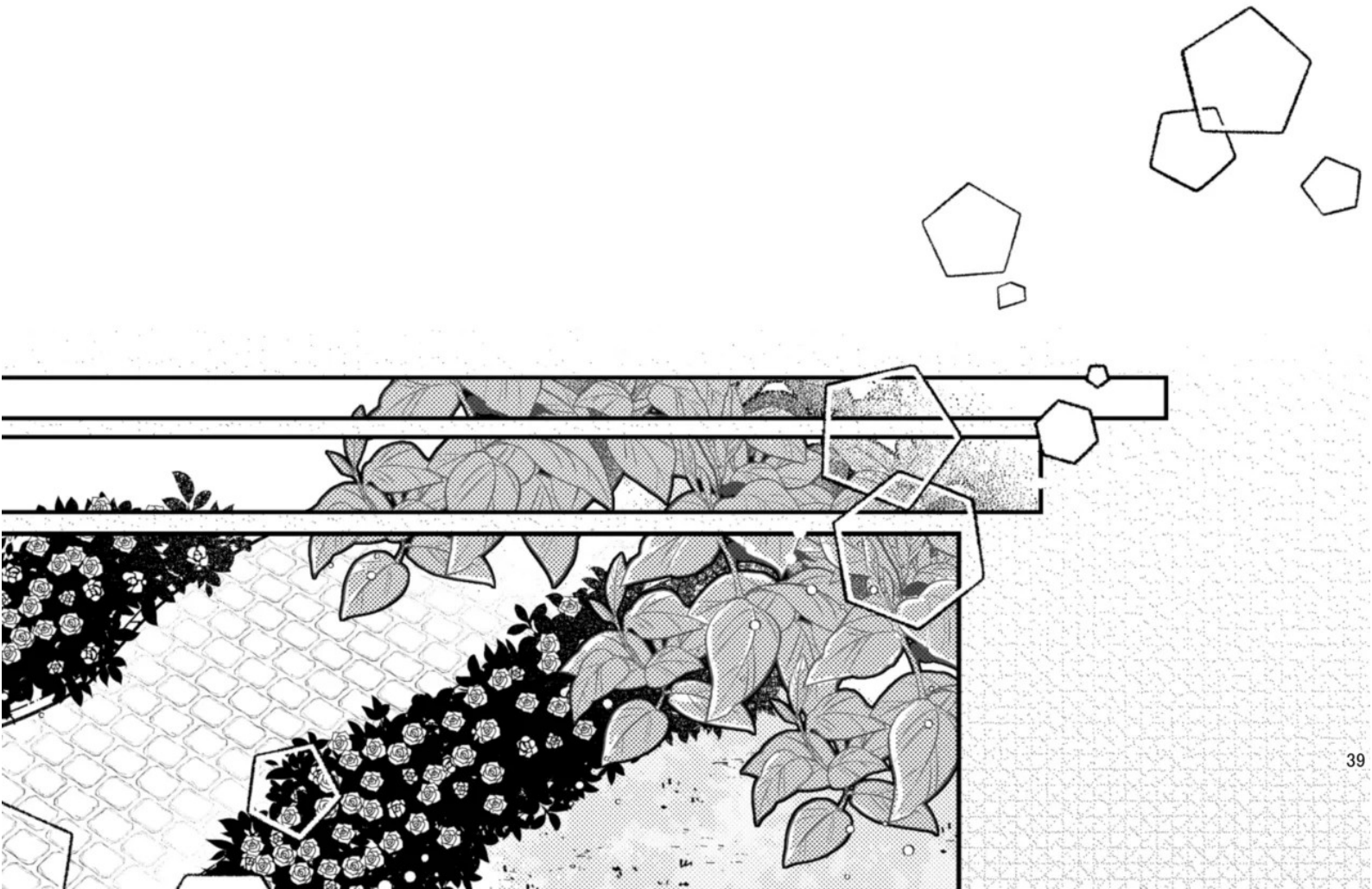
紅が映って
しまって
いますよ

でも
また背が伸びた
ようですね
すっかり
おなじ目線
うん
なんていっても
成長期だからね
この目線だと
君とキスが
しやすくて
でも見ていて
きっとすぐに
君を追い越すよ

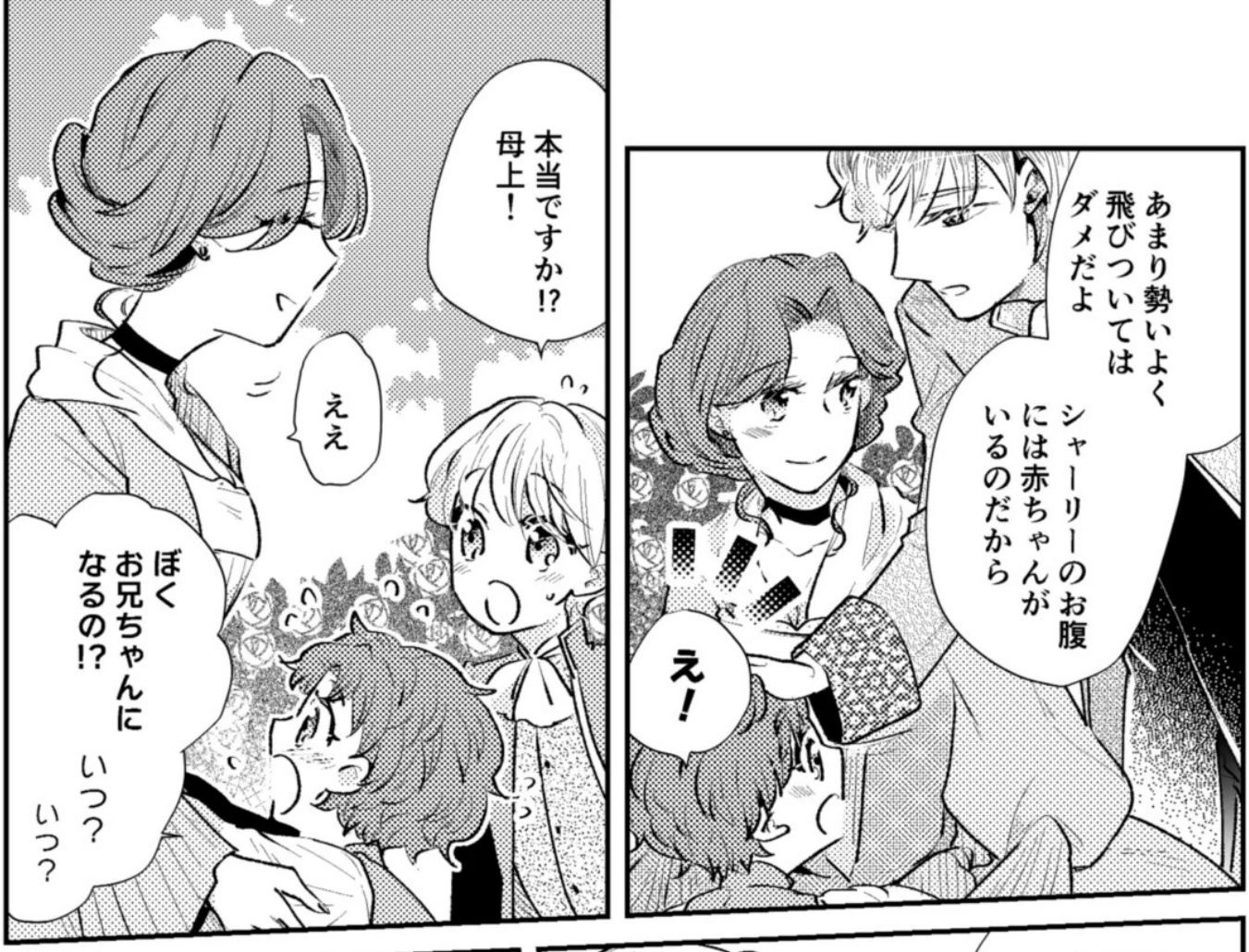
その通り
この方は
みるみるうちに
大人になっていく
のだろう

今でだって
こんなにも魅力的で
素敵なのだから
きっとその頃には
誰もが惹かれる存在
になるわ
その先にあるのが
何であろうとも

ええ
一番近くで
見てゆきますわ



ははうえー！
こら
サッ


本当ですか!?
母上!
ええ
ぼく
お兄ちゃんに
なるの!?
いつ?
いつ?

あまり勢いよく
飛びついては
ダメだよ
シャーリーのお腹
には赤ちゃんが
いるのだから
え!

ぼく、その子に
剣をおしえて
あげるんだ!
フンス!
妹だったら
どうするの?

だったら
いっしょに
本をよんであげる…
あらあら
むぅ…
男の子でも
女の子でも
生まれたら
仲良くして
くれるかしら

いもうと…

うん！
もちろんです

だから今日も
変わらず
君に
恋をしている

【Twitter】@gznr_r

https://twitter.com/gznr_r

【ましゅまろ】
ご意見・ご感想にどうぞ

https://marshmallow-qa.com/
gznr_r?utm_medium=url_text&utm_source=promotion

2023/11　発行
グズノロ。
ありしろいちや

arishiro18@gmail.com

https://arishiro.fanbox.cc/
https://ci-en.dlsite.com/creator/5503

無断転載・無断複製禁止
Reproduction is prohibited.

PRESENTED BY GUZUNORO.

R18
少年王と年上王妃
past days
PRESENTED BY GUZUNORO.